

マラキ書 2:17-3:15 奪われる喜び

待降節第3週目の今日の説教は、マラキ書 2:17-3:15 から喜びについて見ていきたいと思います。それは、イスラエルの民が神の慈しみを疑い続けるというネガティブな姿を見ることによって明らかになります。この書の前半は祭司たちに向けられています。マラキ書 2 章 17 節からは神は明らかにイスラエル国民全体に向けて語られています。そしてその神との対話の中で、神に投げかけた最後の 4 つの問いを通して、人々の喜びが奪われていくのを見ることができます。彼らは神に対して不満を抱き、神の慈しみを当然のことととらえることで、彼らの人生の喜びを欠くことにつながっています。今日、人々は喜びを必要としています。多くのクリスチャンでさえ、常に苛立ちと不満の中にいるように見えます。喜びよりもむしろ、生活の中で不満を露わにし、キリスト者にふさわしくない姿を見せ、イエスが私たちに体験してほしいと望まれる喜びを反映しようとしません。では、その答えとは何なのでしょう。この箇所を吟味し、何が私たちの喜びを奪うのか、そして真の喜びはどこから来るのかを見てみましょう。

マラキ書 2 章の終わり、17 節から、1 つ目の喜びを奪うものである誤った神の見方を見ていきましょう。「あなたがたは、自分のことばで主を疲れさせた。あなたがたは言う。「どのようにして、私たちが疲れさせたのか。」それは、あなたがたが「悪を行う者もみな主の目になっっている。主は彼らを喜ばれる。いったい、さばきの神はどこにいるのか」と言うことによってだ。」ここでも再び、同じ発言、対立的な質問、応答のパターンを見ることができます。神は、あなたたちの話に聞き疲れたと言われます。まるで「あなたたちの泣き言にイライラする」とおっしゃっているかのようです。もちろん、神は私たちの声をお聞きになりたいと言っておられるのですから、私たちの多くと同じく、彼らもこのことに疑問を抱くでしょう。詩篇 55:16-17 にもこうあります。「16 私が神を呼ぶと 主は私を救ってくださる。17 夕べに朝に また真昼に 私は嘆きうめく。すると 主は私の声を聞いてくださる。」では、どうして神は今になって「もう聞き飽きた」などと言われるのでしょうか。「どのようにして、私たちが疲れさせたのか。」というのが彼らの問いでした。神は彼らの言葉を引用しながら答えられます。神が引用されたのは 2 つのフレーズでした。一つ目は、「悪を行う者もみな主の目になっっている。主は彼らを喜ばれる。」というフレーズです。そして自分たちが見ていると思っていることに対して「いったい、さばきの神はどこにいるのか」と尋ねました。彼らが何を言おうとしているのか、これを言い換えるとうるなと思います。彼らは神に向かって「私たちはもっと良くしてもらえるべきだ」と言っているのです。あなたの民である私たちではない者らに、あなたは良くしてやっている。だから、正義の神であるどころか、あなたは私たちを不当に扱っている。彼らが持っていた「自分たちを苦しめる」神、不当に扱う神という見方があらゆる喜びを彼らから奪い取っていたのです。多くの場合、神に対する間違った、聖書的でない見方は、私たちから喜びを奪ってしまいます。ここでは、彼らは神が不公平で不当だと思っていたため、彼らの喜びが影響を受けました。イスラエルの人々は神が人々に恵みとあわれみや好意を示されることを疑っていたわけではありませんでしたが、神がそれらを自分たち以外のすべての人に示されていると思っただけです。私たちも、神に拒絶されているとか、ないがしろにされているとか、不当に扱われているといった間違った印象を持ってしまうことがあります。私たちの神に対する見方が、聖書から得られる神についての客観的な知識に基づいたものでない場合、その神に対する見方は、神についての真の知識が与える喜びをもたらしてはくれません。

3 章の冒頭で、彼らの不公正を非難する声に対して神は答え続けます。ご自分が下す裁きについて述べることをもって、ご自分が義なる神でおられることを証明されます。ですが、その裁きは、彼らが想像していたものとは異なり、彼らが犯していた罪に望まぬ注目を集めることとなります。3 章 1-5 節を読んで、神の義に関する弁明を見てみましょう。「3 見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。——万軍の主は言われる。2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。3 この方は、銀を

精錬する者、きよめる者として座に着き、レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粹にする。彼らは主にとって、義によるささげ物を献げる者となる。4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日々のように、ずっと以前の年々のように主を喜ばせる。5 わたしは、さばきのためにあなたがたのところに近づく。わたしは、ためらわずに証人となって敵対する。呪術を行う者、姦淫をする者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人を虐げてやもめやみなしごを苦しめる者、寄留者を押しのけてわたしを恐れない者に。——万軍の主は言われる——」この応答は、神がアブラハム、モーセ、ダビデと結ばれた契約、すなわち神の正義の証であると同時に神の恵みの証でもある、来るべきメシアに関する直接的な預言です。新約聖書には、メシアに先立ち、メシアを世に宣べ伝えるために遣わされる者がいたことが語られています。マルコの福音書 1:2-3 では、「預言者イザヤの書にこのように書かれている。「見よ。わたしは、わたしの使いをあなたの前に遣わす。彼はあなたの道を備える。3 荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ。』」」と記されています。この箇所はイザヤ書 40 章だけではなく、マラキ書 3 章の引用でもあります。マルコと他の福音書著者は、メシアの前に現れるこの最初の者を誰だと語っているのでしょうか。マルコ 1:4 には「バプテスマのヨハネが荒野に現れ、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。」とあります。つまり、バプテスマのヨハネは約束された使者なのです。

ですが、来るのはバプテスマのヨハネという使者だけではないことに注目してください。神がここで一人称代名詞を使っておられることに注目してください。この死者はわたしの前に道を備えると言われています。では、神ご自身が来られる前に使者が道を備えるのでしょうか。そう言っておられます。それではなぜ、その後に契約の使者と呼ばれる主が来られると言っているのでしょうか。来られる主とは神ですが、マラキを通してここで語られている父なる神とは何か別の存在です。これは主イエス・キリストご自身についての預言です。肉体をもってこられる神、完全に人となられるけれど、同時に完全な神であられる神です。そして、この預言から約 420 年後、マリアとヨセフという夫婦がイエスという名の小さな赤ちゃんを宮に連れてきました。その同じイエスが、成長して、裁きの時に再び宮に入り、そこが全ての人々のための祈りの場となることを宣言します。同じイエスが、私や皆さんが人間であるというだけで受けるべき罰を受けるため、罪を贖うために、自ら進んで十字架にその命を捧げてくださるのです。それは、「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができ ローマ 3:23」ないと聖書にあるからです。何を罪とするかは、聖い神が決められることであって、社会や政府の定めた規則、私たち自身の両親によって決められるものではありません。

罪が存在するからこそ、旧約聖書で約束されたあるいは契約されたことを成就するメシアの到来は恐ろしいことなのです。ですから 2 節は「だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。」と始まります。「でも、これはメシアの到来を喜んでいることを語っているのではないか」と思われるかもしれません。他の英語や日本語の新改訳聖書では、彼らは使者の到来を「望んでる」と書かれています。ですが、この言葉はマラキ書 2:17 で「悪を行う者もみな主の目にかなっている。主は彼らを喜ばれる。」と書かれている箇所が使われている言葉と同じ言葉です。人々が、神は私たちよりも悪を行う人たちを喜ばれる、と言っていたことを思い出してください。神はそれに対して「あなたたちは私を喜ぶとか望むとかいう」「だが、本当は私が正義を成そうと来たなら、あなたがたは喜びも望みもしない。」なぜでしょう。それは使者が「精錬する者の火」として来られるからです。今、私たちが話しているのは最初の来臨についてではありません。今話しているのはイエス・キリストの再臨について、イエス・キリストの御前に立ち、私たちの罪について弁明するときのことについてです。3-5 節で指摘されているように、義なる神からくる裁きは、再び純粋な礼拝をもたらします。ですがそれは、罪とその罪を犯した者が裁かれることによってのみもたらされます。そのことを 5 節に、神が「さばきのためにあなたがたのところに近づく。」とあることに見ることができます。もちろん、彼らは神を不公平だと思っていたので、5 節に挙げられているような罪を自分たちが犯していることに気づけませんでした。ですから、自分たちの周りにいる人々を見て、高慢で優越的な態

度をもって自分たちと彼らを比較し、自分たちは神からより良い扱いを受けるに値すると思っていました。ですが、祭司たちが中途半端な礼拝によって神を敬わなかったのと同じく、罪の裁きによって神の義を示すことを求めることによって、人々も神に対して罪を犯していたのです。これらの罪が全て、私たちが他の人にどのように接するかに関係していることに注目してください。私たちは神に従っていると言いながら、周囲の苦しみから目をそらすことはできません。そのこと自体が罪だからです。孤児や、やもめ、貧しい人、虐げられている人、外国人、そして自分の配偶者でさえ、自分本位にではなく、その人たちの益を求めて見る必要があります。この問いへの答えは7節の途中で終わっています。そして、最後の2節を読む時、人々の罪と不正への非難を前に、神がご自身の義をどのように示されるのかを見ることができます。しかも、そこに彼らが受けるべき裁きではなく、恵みを見ることができます。6-7節にはこのようにあります。「主であるわたしは変わることがない。そのため、ヤコブの子らよ、あなたがたは絶え果てることはない。7あなたがたの先祖の時代から、あなたがたはわたしの掟を離れ、それを守らなかった。」イスラエルの民が不正と思ったのは、実際は、彼らを滅ぼすことなく、むしろ何百年も前にヤコブを選んだ愛の中に見られる、神の憐みと恵みでした。彼らは神の恵みを見ることができませんでした。そして、神に対する誤った見方が彼らの喜びを奪ってしまいました。その喜びは罪を悔い改め、来るべきメシアへの信仰によってのみ回復することができるのです。

また、彼らの罪は他人に対してだけではなく、神ご自身に直接対するものでした。その罪の中に、私たちは二つ目の喜びを奪うもの、つまり与えることについての誤った見方を見ることができます。彼らが次に挙げた二つの質問から、そのことを見ていきましょう。7節は「あなたがたの先祖の時代から、あなたがたはわたしの掟を離れ、それを守らなかった。」と始まっています。そして続けて、神は彼らに語られます。「わたしに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたに帰る。——万軍の主は言われる——」再び彼らは質問します。「しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちは帰ろうか』と。」神は応えられます。「人は、神のものを盗むことができるだろうか。だが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。」再び彼らは自分たちに対する神の扱いについて疑問を投げかけます。「しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだのでしょうか』と。」神の応答は次の通りです。「十分の一と奉納物においてだ。9あなたがたは、甚だしくのろわれている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民のすべてが盗んでいる。10十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ。——万軍の主は言われる——わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか。11わたしはあなたがたのために、食い荒らすものを叱って、あなたがたの大地の実りを滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。——万軍の主は言われる——12すべての国々は、あなたがたを幸せ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。——万軍の主は言われる。」これまで私たちは、イスラエルの人々が神の恵みと憐れみを神の側の不正と誤解していたために、神に対して間違った見方をしていたことを見てきました。ですが、神は、彼らが互いに対して、また神に対しても罪を犯したことを明らかにすることを望まれました。その罪とは、十分の一と奉納物においての罪でした。彼らが他国を見たとき、ご自分の民としてイスラエルを祝福せずに、それらの国々を不当に祝福していると感じていたことを覚えておられるでしょうか。ここでの最後の質問にあるように、神がわたしに帰れと呼びかけられたとき、彼らは自分たちが離れたとは思ってもいなかったのもので、どのようにして帰ることができるのか分かりませんでした。「どのようにして、私たちは帰ろうか」ですが神は、彼らが受けるに値するのは滅びであると既に告げられ、彼らがどれほど神から離れたところにあるのかを示されました。人々は十分の一と奉納物によって神から盗んでいました。10節に「十分の一をことごとく」とあるのに注目してください。彼らはいくらかは捧げていたようです。おそらくポケットから数シェケルか、いくらかの円やドルを取り出して箱に入れていたのでしょう。神社で100円玉や500円玉を取り出して賽銭箱に投げ入れ、ご利益を得ようとするのに似ていたかもしれません。ですが、神が求めるもの、つまり十分の一と、神への感謝を示す定期的な奉納物を捧げてはいませんでした。彼らは捧げることをやめてしまったことにより神の祝福を失い、神の祝福を見ることができなかったために喜びを失っ

ていました。ここにおられる方の中にも、人生に喜びがなく、神に見放されたと感じながら、文字通り命を与えてくださった方に、礼拝においてほとんど何も捧げていないという方がおられるのではないのでしょうか。私たちの喜びは神から頂くことによるのではなく、既に与えていただいた祝福から神にお返しすることにあるのです。私たちは捧げるときに、私たちの必要を超えて与えてくださる、すべてを備えてくださる神を見ることができなのです。神はイスラエルに言われます。「畑のぶどうの木が不作とならないようにする」そして、直接喜びの問題に触れて、神はこう言われます。「国々は、あなたがたを幸せ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。」あなたは喜びを一今度こそ真の喜びを一神から、また神に在って得るでしょう。多くの人がキリスト教をあなたのお金を欲しが、貪欲な牧師や教会の宗教だと攻撃します。そしてそのような牧師や教会も存在します。ですが、クリスチャンにとっての捧げものとは、組織や特定の個人を支援するためのものではなく、イスラエルの民が見逃していた神の恵みや憐れみを、私たちの人生に認めるゆえに神を礼拝することなのです。そして、そのような無私の捧げものという思いの中で、神の子として経験する満ち足りた喜びを得ることができるのです。

ですが、神は最後にもう一点について語られます。13-15 節にはこのようにあります。「13 あなたがたのことばは、わたしに対して度を越している。——主は言われる——あなたがたは言う。『私たちが何と言ったのですか』と。14 あなたがたは言う。『神に仕えるのは無駄だ。神の戒めを守っても、万軍の主の前で悲しんで歩いても、何の得になろう。15 今、私たちは高ぶる者を幸せ者と言おう。悪を行っても栄え、神を試みても罰を免れる』と。」彼らが神に対立していたのは、捧げないという行為だけによるのではなく、神に対して語った言葉においてもありません。神はこの箇所において、人々が神の不正義を非難し、神を誤解し、神に従い続ける理由を見いだせなかったことを一貫して指摘しておられます。事実、彼らの考えでは、神を信じない国々が祝福され、悪を行う者たちが栄えていたのですから、神に仕えることは無駄でむなしいことだと思っていたのです。けれど、神がどれほどまでに彼らを喜んでおられたのかを人々は見逃していました。神は恵みゆえに彼らを滅びから守り、究極の救い主であるメシアを約束されました。高慢な特権意識ゆえに、イスラエルの民はメシアの到来という約束を見逃していたのです。私たちは自分が罪人であり、裁きという形で神の正義に価するのだということを認める時のみ、罪を悔い改め、そのメシア、救い主であり主であるイエスを受け入れることができるのです。そうするとき、私たちは裁きの中ではなく神の恵みを認めるようになり、マラキ書 1:2 にある神の最初の言葉である「わたしはあなたがたを愛している。」という言葉の真実を見ることができます。そして来週、マラキ書 3:17 で「彼らは、わたしのものとなる。——万軍の主は言われる——わたしが事を行う日に、わたしの宝となる。」という言葉でこの書を終えるとき、神が愛する人々に何を望んでおられるのかを知ることができます。神は義なる神ですが、イエス・キリストの内に与えてくださる、私たちの罪に対する神の恵みを見るとき、そして、その恵みに応え、自分を顧みることなく神と他者に捧げることによって特徴づけられる、イエスに従う人生を送るとき、私たちはこの世に在って真の喜びを見いだすことができるのです。祈りましょう。

Malachi 2:17-3:15 Robbed of Joy

Today's message for this third week of Advent from Malachi 2:17-3:15 is focused on joy. This focus becomes clear as we look at the negative example of the people of Israel as they continue to question God's goodness to them. The first half of the book focused on the Priests, but now starting in verse 17 of Malachi 2, the focus of what God is saying has clearly expanded to the entire nation of Israel. And in this dialogue they have with God, through the final 4 questions they ask him, we see that the people have been robbed of joy. They are discontented with God and are taking him for granted, and this has led to a lack of joy in their lives. Today, people are in need of joy. Even many Christians seem to constantly be in a state of irritation and moodiness. Rather than joy, we show people a discontentment in our lives that is not Christlike and does not reflect the joy that Jesus wants us to experience in Him. So what is the answer? Let's examine this passage and see what steals our joy and where true joy comes from.

Let's begin reading at verse 17 as we end chapter 2 of Malachi where we see the **first thief of joy – a wrong view of God.** ¹⁷ You have wearied the Lord with your words. But you say, "How have we wearied him?" By saying, "Everyone who does evil is good in the sight of the Lord, and he delights in them." Or by asking, "Where is the God of justice?" Once again, we have the same statement, argumentative question and response pattern here. God says, I am tired of listening to you. It is as if he is saying, "your whining is getting on my nerves!" Of course they question this as most of us would since God tells us he wants to hear from us. We read Scriptures like [Psalm 55:16-17](#), ¹⁶ But I call to God, and the Lord will save me. ¹⁷ Evening and morning and at noon I utter my complaint and moan, and he hears my voice. So, how can God now say, "I'm tired of hearing from you"? That's what they ask, "How have we wearied him?" God quotes their own words back to them as he begins to answer them. The words he quotes them as saying are two phrases. The first is, "Everyone who does evil is good in the sight of the Lord, and he delights in them." Then they asked in response to what they think they are seeing, "Where is the God of justice?" Let me rephrase this and paraphrase it to show what they are saying. They had been saying to God, "We deserve better!" You are doing good to all the people who are not us...who are not your people. So, rather than being a God of justice, you are treating us unjustly. Their view of God as "picking on them" and treating them unjustly had robbed them of any joy. Many times a wrong and unbiblical view of God can rob us of joy. In this case, they thought God was unfair and unjust, so it affected their joy. In the case of Israel, they didn't doubt that God did show grace and mercy or goodness to people, they just thought he was doing it for everyone but them. We can also have that wrong impression of God that he is rejecting us or neglecting us and treating us unfairly. Whenever our view of God is not based on the objective knowledge of him that comes from the Bible, then our view of God will not bring us joy that true knowledge of God brings.

As Chapter 3 opens, God continues his response to their accusation of injustice. He proves with his answer that he is a just God by describing the judgement that he will bring. But that judgement will be different than anything they could imagine and will bring unwelcome attention to the sin that they were participating in. Let's read verses 1-5 of chapter 3 and see this defense of God's justice. **3 "Behold, I send my messenger, and he will prepare the way before me. And the Lord whom you seek will suddenly come to his temple; and the messenger of the covenant in whom you delight, behold, he is coming, says the Lord of hosts. ² But who can endure the day of his coming, and who**

can stand when he appears? For he is like a refiner's fire and like fullers' soap. ³ He will sit as a refiner and purifier of silver, and he will purify the sons of Levi and refine them like gold and silver, and they will bring offerings in righteousness to the Lord. ⁴ Then the offering of Judah and Jerusalem will be pleasing to the Lord as in the days of old and as in former years. ⁵ "Then I will draw near to you for judgment. I will be a swift witness against the sorcerers, against the adulterers, against those who swear falsely, against those who oppress the hired worker in his wages, the widow and the fatherless, against those who thrust aside the sojourner, and do not fear me, says the Lord of hosts. This response is a direct prophecy of a coming Messiah, the one who will fulfill the covenant that God made with Abraham, Moses and David - The proof of God's justice and righteousness, but also his grace. The New Testament tells us there was a messenger sent ahead of that Messiah to proclaim him to the world. [Mark 1 begins with verses 2-3](#) telling us, [2 As it is written in Isaiah the prophet, "Behold, I send my messenger before your face, who will prepare your way, 3 the voice of one crying in the wilderness: 'Prepare the way of the Lord, make his paths straight,'"](#) This passage not only quotes Isaiah 40, but Malachi 3 here as well. And who do Mark and the other Gospel writers tell us this first Messenger who comes before the Messiah is? [Verse 4 of Mark 1 tells us, John appeared, baptizing in the wilderness and proclaiming a baptism of repentance for the forgiveness of sins.](#) So, John the Baptist is the promised Messenger.

But notice that this is not talking about the one coming being just the Messenger, John the Baptist. Notice that God uses a first person pronoun here - This messenger is preparing the [way before me](#). So, the Messenger prepares the way before God himself comes? That is what he is saying. But then why does he say after that that the Lord will come who seems to be identified by the term messenger of the covenant as well? This Lord who comes is God, but yet somehow separate from God the Father who is speaking here through Malachi. This is prophesying the Lord Jesus Christ himself. God who comes in the flesh, to become fully human, but who is also fully God. And about 420 years after this prophecy, two parents Mary and Joseph would bring a little baby into the temple whose name was Jesus. That same Jesus would grow up and enter that temple again in judgement declaring that it would be a place of prayer for all people. And that same Jesus would willingly lay his life down on a cross to pay for our sin, to take the punishment that you and I deserve simply by the virtue of being human. Because the Bible tells us that humans, [all have sinned and fall short of the glory of God... Romans 3:23](#). What constitutes sin is determined by a holy God and not by a society or a rule of government or even our own consciences.

The presence of sin is the reason that this coming of this Messiah, the one who would be the fulfillment of all the Old Testament promises or covenants, would actually be a scary thing. So verse 2 begins, ² [But who can endure the day of his coming, and who can stand when he appears?](#) You might think, "but this tells us they delight in his coming?" Other English versions and the Japanese Shin Kai Yaku tells us they "desire" his coming. But what you need to see is that this is the same word that that is used in Malachi 2:17 where we are told, ["Everyone who does evil is good in the sight of the Lord, and he DELIGHTS in them."](#) Remember the people were saying God delights in these evil people rather than us. God was now saying something like, "you SAY that you DELIGHT in me or DESIRE me..." But the truth is, when I come to deliver Justice, you really will not DELIGHT in it or DESIRE it. Why is that? Because he is coming as a ["Refiner's Fire."](#) Now we are not talking about the first coming, the first Advent. We are now talking

about the Second Advent, the return of Jesus Christ where we will all stand before Jesus Christ and give account for our sin. As verses 3-5 point out, this judgement from a just God will result in pure worship once again, BUT it only comes because the sin and those who commit that sin are judged. We see that in verse 5 as he **draw[s] near to you for judgment**. Of course they thought God was unjust; they couldn't see that they had any of this sin that he lists in verse 5. So, when they looked at the other people around them and compared themselves to them in a prideful and superior way, they thought they deserved better from God. But just as the priests had failed to honor God by half-hearted worship, the people were sinning against God with their actions which demanded a display of God's justice by judging their sin. And notice that these sins all involve how we treat others. We can't say that we follow God and ignore the suffering around us...that in itself is sin. We need to see the orphan, the widow, the poor, the oppressed, the foreigner and even our own spouses and seek for their good rather than our own selfish ends. This question's answer really ends in the middle of verse 7. And when we read these final 2 verses God wraps up his proof of just how he shows his justice in the face of their sin and accusations of injustice. And rather than the judgement they deserve we see grace. Verses 6-7 say, **⁶“For I the Lord do not change; therefore you, O children of Jacob, are not consumed. ⁷From the days of your fathers you have turned aside from my statutes and have not kept them.** What Israel saw as injustice was really God's mercy and grace in not destroying them but rather acting in love on his choice of Jacob hundreds of years before. They failed to see God's grace. And their wrong view of God had robbed them of their joy, which could only be restored by repentance of sin and putting faith in the coming Messiah.

But their sin was not just against others, it was directly against God himself. And in this sin, we see the **second thief of joy – a wrong view of giving**. Let's look at the next two questions they ask and see this. Remember verse 7 begins, **⁷From the days of your fathers you have turned aside from my statutes and have not kept them.** Now he calls to them as verse 7 continues. **Return to me, and I will return to you, says the Lord of hosts.** Again they question God. **But you say, ‘How shall we return?’** God responds. **⁸Will man rob God? Yet you are robbing me.** Again they question God's assertion of their treatment of him. **But you say, ‘How have we robbed you?’** This is God's response. **In your tithes and contributions. ⁹You are cursed with a curse, for you are robbing me, the whole nation of you.¹⁰Bring the full tithe into the storehouse, that there may be food in my house. And thereby put me to the test, says the Lord of hosts, if I will not open the windows of heaven for you and pour down for you a blessing until there is no more need. ¹¹I will rebuke the devourer for you, so that it will not destroy the fruits of your soil, and your vine in the field shall not fail to bear, says the Lord of hosts. ¹²Then all nations will call you blessed, for you will be a land of delight, says the Lord of hosts.** So far we have seen that the people of Israel have a wrong view of God because they have mistaken his grace and mercy as injustice on God's part. But God also wants to make clear that they have sinned both against each other AND against him. And this sin was in not bringing their tithes and offerings to him. Remember when they looked at other nations they felt God was blessing them unfairly while not blessing Israel as his own people. As we see in this latest question when God tells them to return to him, they don't believe they can return because in their minds they never left! **“How shall we return.”** But God has already told them that what they deserved was destruction, and now he goes on to show them how far away from him they really are. They are robbing him by not giving tithes and offerings. Notice in verse 10 it says, **“the full tithe.”** They

were still giving some it seems. Perhaps they pulled a few shekels or yen or dollars from their pocket and threw it in a box. Perhaps like people do at a shrine by pulling out 100 or 500 Yen and throw it in the offering box to gain a favorable response to their prayer. But they were not giving what God required – the 10% tithe, and the regular offerings to show their thankfulness to him. They had lost their joy because they did not see God's blessing, which they had lost because they quit giving. Could it be that some of you in here don't have joy in your life and feel God has abandoned you, but yet you hardly give anything in worship to the one who literally gave you life? Our joy is not tied to getting from God, but in giving back to God from the blessings he has already given us. It is when we give that we see the all sufficient God supply all that we need and more. He tells Israel...**your vine in the field shall not fail to bear**... Then speaking directly to the issue of joy God tells them, **nations will call you blessed, for you will be a land of delight**. You will have joy – true delight this time – from and in your God. Many people attack Christianity as a religion of greedy pastors and churches wanting your money, and that does exist. But giving for a Christian is not to support an organization or an individual, it is to worship God because we recognize his grace and mercy in our lives that the people of Israel had failed to see. And it is in that mindset of selfless giving that we receive the contented joy we can experience as a child of God.

But there is one final statement and argument that God addresses. Verses 13-15 say, ¹³**“Your words have been hard against me, says the Lord. But you say, ‘How have we spoken against you?’** ¹⁴**You have said, ‘It is vain to serve God. What is the profit of our keeping his charge or of walking as in mourning before the Lord of hosts?’** ¹⁵**And now we call the arrogant blessed. Evildoers not only prosper but they put God to the test and they escape.”** It wasn't just actions of not giving they had done against God, but they had spoken words against God as well. God has pointed out all along this passage that they had accused him of injustice and that in their misrepresentation of God, they found no reason to continue to obey him. In fact they thought it was useless or vain to serve God, since in their view, the godless nations were blessed and the evildoers prospered. But God has been clear that they missed just how much God did delight in them. By his grace he was preserving them from destruction and had promised an ultimate Savior, a Messiah. In their prideful state of entitlement, the people of Israel were missing the promise of the coming of a Messiah. It is only when we recognize that we are sinners and DO deserve God's justice in the form of judgement, that we then repent of our sins, and accept THAT Messiah, Jesus, as our Savior and Lord. When we do that, we move out of a state of judgment and into a recognition of his grace towards us and see the truth of God's first words in **Malachi 1:2 “I have loved you..”** And then we can see what God wants for those he loves as we close this book next week with the words of **Malachi 3:17, “They shall be mine, says the Lord of hosts, in the day when I make up my treasured possession...”** God is a just God, but when we see his grace towards our sin he offers us in Jesus Christ, and respond to that grace with a life of following Jesus, that is characterized by selfless giving to God and to others, then we can find true joy in this world. Let's pray.